

# 29AB-pm003

一般用医薬品の消炎鎮痛剤におよぼす血行促進成分の影響

○今井 こずえ<sup>1</sup>, 竹野 隆太<sup>1</sup>, 岡本 浩明<sup>1</sup>, 矢野 博子<sup>1</sup> (<sup>1</sup>小林製薬)

【目的】国民生活基礎調査(平成 25 年)によると、12 歳以上の男女の内 48.1%と 2 人に 1 人は日常生活でストレスを感じている。更にストレス等様々な要因による自覚症状としては、男性で 1 位:腰痛、2 位:肩こり、3 位:鼻炎、女性では 1 位:肩こり、2 位:腰痛、3 位:手足の関節痛となっており、関節や筋肉にトラブルを抱える方が多い。これら有訴者の約半数はその対処として、薬店薬局で外用消炎鎮痛薬等の一般用(OTC)医薬品を購入する方が多く、薬剤に対し高い有効性に加え即効性などの使用実感が求められている。そこで今回、抗炎症鎮痛成分として OTC 医薬品に配合されるようになったジクロフェナクナトリウムに関し 3 種の血行促進成分を配合した製剤の有効性に与える影響について検討を行ったので報告する。

【方法】試験は Wistar 系雄性ラット(5 週齢)を用い、カラゲニン誘発足浮腫試験にて実施した。検体は無処置群に、①:ジクロフェナクナトリウム 1%液、②:①+トコフェロール酢酸エステル、③:①+ニコチン酸ベンジルエステル、④:①+ノナン酸バニルアミド、⑤:①+③成分の 5 薬剤群を加え、計 6 群とした。

【結果および考察】カラゲニン投与 2 時間後において、無処置群に対し、①、②、③、⑤の薬剤群で浮腫抑制効果が認められ、特に 3 成分を追加配合した⑤の薬剤群で最も高い浮腫抑制効果が見られた。トコフェロール酢酸エステルやニコチン酸ベンジルエステル、ノナン酸バニルアミド等の血行促進成分の配合は、ジクロフェナクナトリウムの抗炎症効果を高める作用が期待できるが、本効果とは別に各成分の持つ皮膚への局所刺激の特徴から、3 成分組合せによる薬剤塗布時の効果実感等の処方検討を行う必要がある。